令和５年度学校評価報告書

令和６年（2024年）３月26日

北海道教育委員会教育長　様

北海道深川西高等学校長　福　田　雅　人

次のとおり令和５年度の学校評価について報告します。

１　本年度の重点目標

(1)　ICTを効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業と学習評価の改善に取り組む
(2)　目指す資質・能力の着実な育成に向けて、総合的な探究の時間や特別活動の充実・発展に取り組む
(3)　地域や関係機関等との連携、及び地域の特性・教育資源を活かした教育活動を推進する

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程	生徒や保護者、地域の要望を踏まえた形の教育課程の編成に努めている。探究活動については、更に発展させるために、指導内容・方法等について共通理解を図っていく必要がある。	教育課程の編成を適切に行えていると評価する。今後はより個に応じた指導について充実させてほしい。社会との結びつきを経験する場を作ってほしい。
改善方策	「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、授業と評価について改善するため、外部研修の活用と校内での学び合いを促進していく。	
学習指導	ICT活用を授業や評価に積極的に用いるための研修を行った。観点別評価について、生徒・保護者の理解啓発を図るため、教務だよりを発行した。	学習指導について、適切に行われていると評価する。しかしながら、多様化する生徒の学びの意欲を喚起するための指導の工夫と研修を求めたい。
改善方策	授業研究旬間の工夫を通じ、全教員参加の研究授業・合評会を実施し、授業改善を進めていく。研修を通じ、観点別評価の妥当性・信頼性を向上させる。	
生徒指導	いじめ未然防止対策として、いじめアンケートを年４回実施し、その結果について積極的に公表し、いじめ見逃しゼロを目指した。	地域の少子化が進み、多様な生徒の入学が予想される。そのため、配慮すべき生徒に対する対応を学習指導だけでなく、学校生活全般で今後もお願いしたい。
改善方策	教員集団として、共通理解に基づき、組織的・協働的に対応していく。そのため委員会活動を核として、情報を共有する機会を積極的に持つ。	
進路指導	キャリア教育の一環として、地域の職業人による「未来への道しるべ」を実施した。カタリバを通じ、自己の進路を考える機会を提供できた。	進路指導に時間を使うことで、生徒の可能性が広がると考える。地域との関わりをより深めることで社会との結びつきを学び、進路を深く考えるのではないか。
改善方策	地域と連携・協働した教育活動の安定的・継続的な実施体制の構築に向けた関係機関との協議の実施。	
健康・安全指導	ICTを活用した相談窓口を用意した。要支援の生徒に対し、委員会を中心とした支援体制を充実させる。	配慮を要する生徒が増えてくることが予想される。そのことへの対応をお願いしたい。
改善方策	各委員会がスクールカウンセラーやパートナーティーチャー等外部専門家との連携を強化し、特別支援教育や教育相談など生徒への支援体制を確立していく。	
公表方法	ホームページへの掲載。ＰＴＡ理事会、総会等での公表。	

３　添付資料
令和５年度　学校評価アンケート集計表（生徒・保護者・教職員）、自己評価書、学校関係者評価書